医療コミュニケーション

［講義］　第３学年　後期　必修　1単位

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》教授／永易 裕樹　教授／長澤 敏行　教授／千葉 逸朗　教授／塚越 博史
教授／安彦 善裕　教授／越野 寿　教授／越智 守生　教授／斎藤 隆史
教授／齊藤 正人　講師／川西 克弥
客員教授／有末 眞　非常勤講師／石橋 宜子

【概　要】
人と接する場合の基本である「接遇」を理解し、学生同士で体験学習し、さらに医療面接の基本であるコミュニケーション技能、患者に接する時の心得を学習する。
また、患者中心の医療を行うためのSOAPを理解し、それに基づく診療録の記載方法について学習する。

【学習目標】
☆　接遇、および医療面接の基本を理解し、説明する。
☆　患者中心の医療を前提とした医療面接に必要な事項について説明する。
☆　医療面接を学生同志（ロールプレイ）で実施する。
☆　SOAPについて説明する。
☆　診療録の記載内容、方法について説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	◎　医療コミュニケーションの意義	●　医療コミュニケーションの科目の内容と意義を理解する。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	永易 裕樹 有末 眞
2	◎　医療コミュニケーションの手法	●　指定教科書を用いて、医療コミュニケーションの方法論について理解する。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	千葉逸朗
3	◎　診査の方法	●　問診等の診査法を理解する。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	永易 裕樹 有末 眞
4	◎　医療コミュニケーション	●　患者理解のための「態度」の重要性を理解する。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	塚越 博史
5 ∫ 6	◎　医療の場面における接遇の基本	●　医療の場面における接遇の基本について学ぶ。 (A-7-1)-①②③)、(A-7-2)-①②③④⑤⑥⑦⑧)	石橋 宜子
7 ∫ 8	◎　SOAPに基づく診療録の書き方	●　POMR（問題志向型診療記録)の概念を学ぶ。 ●　SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	長澤 敏行
9	◎　医療コミュニケーションとSOAP	●　患者への接遇の実際を学ぶ。 ●　患者の心の動きに配慮した面接法を学ぶ。 ●　SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	安彦 善裕
10	◎　医療コミュニケーションとSOAP	●　OSCEにおける医療面接を理解する。 ●　SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	越野 寿
11	◎　医療コミュニケーションとSOAP	●　保存・補綴診療における医療コミュニケーションを理解する。	越智 守生 斎藤 隆史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		●　SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	
12	◎　医療コミュニケーションとSOAP	●　小児の診療における医療コミュニケーションを理解する。 ●　SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	齊藤 正人
13 ～ 15	◎　医療面接の実際	●　医療の現場を想定して医療面接の基本を学ぶ。 ●　与えられた疾患を想定したシナリオを作成し、医療面接の問答を作成し、学生同士でロールプレイを行う。 A-1-2)-①②③④、A-4-1)-①②③、A-4-2)-①②③④⑤⑥⑦	千葉 逸朗 川西 克弥

【評価方法】
◇　授業中のロールプレイに基づいたレポートを評価の対象とする。
◇　レポート（100%）:ロールプレイ中に指摘（フィードバック）された点について改善されているかどうかを評価する。

【備　考】
教科書　：「はじめての医療面接」斎藤 清二 著　医学書院

参考書　：歯科医療面接アートとサイエンス　伊藤 孝訓 編　砂書房
EQ こころの鍛え方　高山 直 著　東洋経済新報社
話せる医療者　佐伯 晴子、日下 隼人 著　医学書院
診療録と重要な医療文書の書き方　山澤 埈宏 著　エルセビア・ジャパン

その他　：評価について希望者にはフィードバックを行う。
授業終了時点では診療録は書けなくても構わないが、POMR、SOAPの概念についてはしっかりと理解しておくこと。

【学習の準備】
☆　予習として、「はじめての医療面接」を読み、医療面接用語（開かれた質問、閉ざされた質問、共感、傾聴、解釈モデル等）又は診療に必要な用語（主訴、現病歴、既往歴等）を理解して授業に臨む。（30分）
☆　復習として、講義中に疑問だった点をまとめておく。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】
DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（専門的実践能力）。
DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を医療コミュニケーションの観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。
DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を医療コミュニケーションの観点から身につける（自己研鑽力）。
DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。
DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】
永易 裕樹（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、千葉 逸朗（歯科医師）、安彦 善裕（歯科医師）、越野 寿（歯科医師）、越智 守生（歯科医師）、斎藤 隆史（歯科医師）、齊藤 正人（歯科医師）、川西 克弥（歯科医師）、有末 眞（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】
医療コミュニケーション学は、患者からの情報を引き出し、分析し、診断するための基本科目であり、学理に則った教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなし、さらに、実際に学生が体験することで優れた教育成果が期待できる内容となっている。